

キリストのみ (ソルス・クリストゥス) ローマ人への手紙3章21-26節

皆さんの中で、何かを修繕したり、調理したり、自分で何かを作ったりするために、他人に頼らずに済むように、その何かを学ぶためにYouTube動画を見たことがある人はどれくらいいらっしゃるでしょうか？私は見たことがあります。とはいっても、動画が示すほど簡単にはいかないこともあります！DIY（自分でやる）プロジェクトを好む人も多く、YouTubeはそうした技術を学ぶ主要な情報源となっています。イケアの白黒図面が時に分かりにくいにもかかわらず人気があるのも、自分で家具を組み立てて費用を節約できるからです。しかしこの世の多くのことはDIYで済ませられるものの、私たちの靈的な生活をDIYしようとすると、事態は深刻な方向へ進んでしまいます。

私たちは、この世界や私たち自身に存在する不完全さや悪に対する答えを、自らの内面や周囲の社会、あるいは生家の家族の中に求めます。そして、超自然的な存在を信じるならばそれと関わる方法を、あるいはこの世界と関わる方法を模索し、おそらくこの世界の外にあるものはすべて拒絶するのです。家の壁なら、プロの職人ほど上手でなくとも、自分たちで目的を果たす壁を築くことはできます。見た目はまずまずで、壁としての機能は果たすでしょう。しかし、靈的な生活に同じ方法で臨むと、私たちは惨めに失敗するでしょう。見た目はまずまずでも完璧ではない何かを築くだけでなく、永遠の光と神の聖なる要求の前では必ず崩れ落ちる人生の構造を築いてしまうのです。

宗教改革の時代までに、福音は多くの点で人間のDIY的な働きとなり、ローマ・カトリック教会が定める行いを実践することで神と正しい関係を築こうとするものとなっていました。改革者たちは、罪からの救いに向けた人間の努力は失敗に終わることを悟りました。そこで彼らは教皇と教会の司教たちに対し、これまで学んできた五つの「ソラ」に基づく福音に立ち返るよう訴えたのです。これまでの学びでは、ソラ・スクリプトゥラ（聖書のみ）、ソラ・グラティア（恵みのみ）、ソラ・フィデ（信仰のみ）を見てきました。本日は4つ目のソラ、ソルス・クリストゥス（キリストのみ）にたどり着きます。この「キリストのみ」という概念こそが、他のソラを結びつける核なのです。キリストは最初の三つのソラの根源であり、来週学ぶように神の栄光のすべての焦点です。私たちにはできない救いの靈的御業を成し遂げられるのはキリストのみです。そして十字架上のその御業こそが、宗教改革の全てのソラを統合するのです。今日のローマ人への手紙3章21節から26節の聖書箇所にも、このことが示されています。まずこれらの聖句を読みましょう。

しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しられて、神の義が示されました。22すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。23すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、24神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。25神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。26すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。

この聖書箇所に目を向け始めるにあたり、SOLASは聖書のみから始まることを思い出してください。ローマ人への手紙3章21-22節では、聖書においてイエス・キリストが聖書の中心的な主題であることが示されています。始めにこれらの節を読みましょう。しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しられて、神の義が示されました。22すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

この二つの節には多くのことが込められています！これらの節からまず思い浮かぶのは、義、すなわち罪のなさ、聖さという概念です。これが宗教改革者たちが取り組もうとした根本的な問題、罪と義、であり、あらゆる宗教がある意味で取り組もうとする根本的な問題でもあります。宗教が倫理的・道徳的なものとそうでないものに焦点を当てているか、あるいは明らかに存在する世界の悪への解決策を見出すことに重点を置いているかにかかわらず、それらは依然として罪の問題と向き合っているのです。もちろん、聖書だけが罪とは何かについて明確な答えを与えて

おり、他の宗教は道徳的悪について独自の定義を作り出しています。しかし、罪という概念は世界の大多数によって問題視されているのです。

問題は、ほとんどの人が自らを罪人とは見なさない点にあります。罪とは、ごく少数の人が抱える道徳的問題か、あるいは文化的・社会的な性質のものであって、個人的なものではないと考えられています。それに対して、その次の1節のローマ人への手紙3章23節はこう告げています。

すべての人は罪を犯して。そしてその罪の本質を **神の栄光を受けることができず**、すなわち神の尊厳と栄光の基準に達していない状態と定義しています。

したがって、宗教改革者たちが主に取り組んだ問題は、いかにして義となり、神と正しい関係を持つかということでした。これが福音によって解決される問題です。これが「義認」という概念の核心であり、神が有罪の罪人を無罪と宣言することなのです。ローマ人への手紙のこの箇所は、まず、神の御前でのこの義は律法を守ることではなく、イエス・キリストへの信仰によって与えられると告げています。しかしそれだけではありません。それはイエス・キリストへの信仰によって与えられると述べ、さらに聖書全体がイエス・キリストを指し示していると言っています。キリストこそが聖書の中心的なテーマなのです。

創世記3章15節の救い主の約束に始まり、世の罪にもかかわらず示された慈しみを再確認する創世記9章のノアとの契約、世界祝福の民となることを約束した創世記12章のアブラハムとの契約、そしてダビデの家系から王が永遠に王座に就くことを約束したサムエル記下7章のダビデとの契約へと続きます。モーセの律法において、私たちは自らの義の欠如と、その律法を全うし完全なる犠牲となる者の必要性を認識します。旧約聖書には繰り返し、イエス・キリストの生涯によってのみ成就し得る預言が記されています。故に聖書は初めから、私たちが神の義を必要とする罪人であることを明らかにしています。聖書を読むほどに私たちの義の欠如は明らかになりますが、同時に信仰によって与えられる約束の義もまた明らかになります。

創世記 15章6節 アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。 旧約聖書は、新約聖書に現れるキリストとその義を指し示しています。神が結ばれた其々の契約は、イエス・キリストによる恵みの契約が現れるための条件を整えたのです。ですから私たちが旧約聖書を読むとき、イスラエルの民のために定められた律法に従うことで救いを得ようとするのではなく、聖なる救い主への信仰による恵みの福音を指し示す図像を探し求めるのです。そしてまさにそれがそこに見出されるのです。キリスト御自身が聖書全体の主題であるため、「聖書のみ」の原則は、イエス・キリストこそが義の唯一の源であると私たちに示します。しかしこの箇所がさらに明らかにするのは、義は神の恵みによってのみもたらされ、イエス・キリストこそが神の恵みの源であるということです。22節の最後のフレーズから読んでいきましょう。**22そこには差別はありません。** **23すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、** **24神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。** **25神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。** 神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。再び、ほんの数節の中に多くの真理が凝縮されています。パウロがローマ人への手紙で扱っていることの一部は、救いの賜物を受け取ることができるのは誰か、ユダヤ人だけなのか、それともユダヤ人と異邦人の両方なのかという問い合わせることです。22節からの彼の答えは **信じるすべての人に与えられます**。その理由は、23節で既に見たように、私たち全員が罪人であり、義は行いによるのではなく、イエス・キリストへの信仰によるものだからです。したがって、イエス様を信じる者は誰でも、25節にあるように信仰によってイエス様を受け入れるのです。この信仰は私たちに義認をもたらします。すなわち、神の目には私たちの罪は赦されているのではなく、キリストの義が私たちの中に見られるため、私たちは義と宣言されるのです。この節は、義認が神の恵みによってもたらされると述べています。これは数週間前に「恵みのみ」について語った際に考察した内容です。

しかし、なぜイエス・キリストが特に神の恵みの源なのでしょうか。それがこれらの聖句が答える問いです。その答えは、神学的に深い意味を持つ二つの言葉にあります。**贖い**（24節）と**宥めのささげもの**（25節）です。何かを贖うとは、それを買い取ることを意味します。

聖書の証言に目を向けると、確かにキリストの血が私たちの罪からの自由を買い取ったことがわかります。旧約聖書における宥めの供え物の概念は、罪の赦しのための儀式として、動物の犠牲に象徴され、子羊や子牛がいにえとして献げられ、祭壇で燃やされることで、一時的に神の怒りが鎮められるとされていました。新約聖書では、イエス・キリスト御自身が全人類の罪のためのなだめの供え物、贖罪のささげ物、宥めの蓋、罪を償う供え物という多種の表現が用いられており、イエス様が十字架上で流した血によって、私たちの罪が償われ、神との和解が実現したと理解されています。

ペテロの手紙一章18-19節は、私たちのために**贖い出された**と言っています。**ペテロの手紙 第一 1章18~19節 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、19傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。**しかし、私たちの罪の代価は誰に支払われたのでしょうか？初期の教会神学者の中には、イエス様がサタンに支払ったと主張しようとした者もいました。これは真実ではありません。**コロサイ人への手紙 2章15節 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。**

これはイエス様が十字架を通してサタンを完全に打ち破り勝利したことであり、いかなる支払いに関する交渉や取引でもありません。いや、むしろ聖書は、贖いの代価が神によってキリストを通して神御自身に支払われたことを示唆しています。それは、神の御怒りの対象となることで私たちの罪の代価を支払うために必要とされた、人となった神であるイエス様の犠牲でした。これが、**贖罪**、という言葉の意味です。この言葉は聖書でたった4回しか使われておらず、すべて新約聖書にある。それは、その怒りを自ら引き受けることによって神の御怒りを鎮めるために献げられる供え物を意味する。この場合、それはイエス、すなわち神の御子御自身が、コリント人への第二の手紙5章21節に従って、宥めのささげものとなったのです。**コリント人への手紙 第二 5章21節 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。**イエス様は私たちの罪を自ら負い、私たちの罪に対する神の御怒りの罰を背負って死なれました。それゆえ、私たちはその御怒りを経験することから救われるのです。**ローマ人への手紙 5章8~9節 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。**
9ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるには、なおいっそう確かなことです。讃美歌、私の望みは主イエスだけにあるの素晴らしい一節は**十字架の苦しみ 御神の怒りを その身に負われて 人を救われたと**詩っています。もしこの二つのことが真実であるなら、すなわちイエス様が私たちを贖い、かつ私たちの罪のために神の御怒りを負われたのであれば、イエス・キリストだけが私たちの信仰の対象でなければならないことは理にかなっています。そして26節はこう結論づけます。**26すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。**イエス様が神の御怒りを自ら負われた事実は、神の義を明らかにするために必要でした。神は私たちの罪を見逃されませんでした。もし見逃していたなら、それは全く義とは言えません。神は実際に、神の御子イエスに罪に対する怒りを注ぐことで、その罪を罰されたのです。これにより神の義は保たれました。なぜなら義は、罪には代償が払われねばならないと要求するからです。

罪を見逃すことは、正義が果たされないことを意味します。しかしイエス様は神の御怒りを引き受け、私たちの罪の代価を支払われました。それゆえ父なる神は私たちを見て、罪の罰はすでに支払われたゆえ、もはや負う必要はないと宣言できるのです。その支払いを根拠に、神は私たちをその罪において義と認めるお方として無罪と宣言されます。しかしその義認はただ一つの基準、すなわちイエス・キリストへの信仰に基づいています。この点を明確に理解する必要があります。それは単に神への信仰ではありません。神の実在を何らかの形で確信している人は多いで

すが、神に近づき、神との関係を持つ唯一の道がイエス様であるとは信じていないのです。ヤコブの手紙 2章19節 あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。サタンのために働く悪魔たちはキリストの信仰者ではありませんが、彼らでさえ神を完全に信じています。私たちを救うのは、三位一体の特定の位格である、御子イエス・キリストへの信仰です。しかしそれは同時に、彼が誰であるかへの信仰でもあります。彼の死が私たちを贖い、神の御怒りを取り除く罪のための宥めとなることができた唯一の理由は、イエス様が聖く罪がないからです。そして彼が聖い唯一の理由は、彼が完全に神であり人でもあるからです。そう信じないことは、イエス様を真に信じていないことです。しかし、イエス様を信じるということは、イエス様だけを信じることを意味します。イエス様と他の何かを同時に信じることはできません。これがローマ・カトリック教会の問題であり、今も変わりなく問題であり続けています。それはカトリック教徒にはイエス様への信仰に加えて、ミサに出席し、洗礼を受け、懺悔をし、司祭に告白することだからです。日本における多くの仏教徒がそうしているように、信じている他の靈的存在のリストにイエス様を加えることでもありません。先祖を崇拝し続けたり、彼らを神のような存在として崇め、人生に守護や繁栄をもたらす靈的存在とするような信仰は続けることはできません。超自然的なもの、神そのものへの道筋を与えてくれるのはイエス様だけです。私たちの信仰は教会や祭司、宗教的義務、あるいは社会的・民族的アイデンティティにあるのではなく、イエス・キリストという人物とその御業のみにあるのです。唯一の正しい対象に向けられていない誠実な信仰を持つこともできます。しかし、信仰の対象としてイエス・キリストにしっかりと根ざした信仰のみが、あなたを救います。救いを自分で作り上げることはできません。それではあなたの罪は赦されず、神の御怒りのもとで地獄での永遠を経験することになるからです。あなたの罪と神の御怒りから救うことのできる救い主が必要です。その救い主こそがイエス・キリストです。自分の罪を悔い改め、救いをキリストのみに求めなさい。キリストは十字架の上で御自身の血によってあなたを贖い、私たちの代わりにその罰である神の御怒りを負うことで、神の御怒りをそらしてくださいました。ですから、先ほどの賛美歌で歌ったように、わたしの望みは、主イエスだけにあると歌いましょう。祈りましょう。

Christ Alone- Sola Christus 『五つのソラ』：神の栄光のみ Romans 3:21-26

How many of you have ever watched a video on Youtube to learn to do something so you could fix something, cook something, or make something on your own without having to rely on someone else. I have, although it hasn't always worked as easy as the videos make it seem! Some people really like DIY projects - do it yourself projects, and YouTube has become a primary source for people to learn to do those things. Its why Ikea with its black and white drawings that sometimes are confusing is also popular as people save money by putting together their own furniture. But while you can DIY a lot of things in this world, things go seriously wrong when we try to DIY our spiritual lives. We look within ourselves or to society around us or our family of origin for an answer to the imperfection and evil that exists in this world and in us. And we look for ways to relate to the supernatural if we believe that it exists or to relate to our world and perhaps reject anything outside of this world. And while we may be able to build a wall in our house ourselves that will serve the purpose and even if it is not as good as a professional builder it will look okay and serve as a wall, we fail miserably when we approach our spiritual life in the same way. We don't just build something that looks okay but may not be perfect, we build a structure for our life that will fail in the light of eternity and the holy requirements of God. By the time of the Reformation, the Gospel had become in many ways a human DIY work to be right with God through doing things the church, the Roman Catholic Church said you should and the Reformers realized that human effort towards salvation from sin would fail. So they called out the Pope and the Bishops of the Church to return to a gospel based on the 5 Solas that we have been studying. So far in our study, we have looked at Sola Scripture - Scripture Alone, Sola Gratia - Grace Alone, and Sola Fide- Faith Alone. Today we come to the 4th Sola - Sola Christus, Christ Alone. This idea of Christ alone is what connects each of the other Solas together. Christ is at the root of the first three solas and is the focus of all of God's glory as we will see next week. Christ alone can do the spiritual work we cannot do to save us. And it is that work on the cross that unifies all the Solas of the reformation. We see this today in our passage in Romans 3:21-26.

Let's read these verses to begin: 21 But now the righteousness of God has been manifested apart from the law, although the Law and the Prophets bear witness to it—22 the righteousness of God through faith in Jesus Christ for all who believe. For there is no distinction: 23 for all have sinned and fall short of the glory of God, 24 and are justified by his grace as a gift, through the redemption that is in Christ Jesus, 25 whom God put forward as a propitiation by his blood, to be received by faith. This was to show God's righteousness, because in his divine forbearance he had passed over former sins. It was to show his righteousness at the present time, so that he might be just and the justifier of the one who has faith in Jesus. As we begin looking at this passage remember that the SOLAS begin with Scripture alone. And in verses 21-22 of Romans 3, we see that in Scripture, Jesus Christ is the central theme of the Bible. Let's read these verses as we begin. 21 But now the righteousness of God has been manifested apart from the law, although the Law and the Prophets bear witness to it—22 the righteousness of God through faith in Jesus Christ for all who believe. There is a lot in these two verses! The first idea that comes to us in these verses is the idea of righteousness or sinlessness, holiness. This is the primary problem that the Reformers were trying to address- sin and righteousness. It is the primary problem that all religions are trying to address in some sense. Whether a religion is focused on what is ethical or moral and what isn't or whether there is a focus on finding solutions to the evil in the

world that so clearly exists, they are still dealing with the problem of sin. Of course, the Bible gives the only clarity on what sin is, and other religions create their own definitions of moral evil. But the idea of sin is seen as a problem by the majority of the world. The problem is that most people do not see themselves as sinners. Sin is a moral problem that either a small number of people have or only cultural and social in nature, but not personal. On the contrary, the very next verse, verse 23 of Romans 3 tells us **For all have sinned...** and then defines the nature of that sin as falling **short of the glory of God**, not living up to the standards of his honor and glory.

So, the Reformers were primarily dealing with the problem of how do we become righteous so that we can be right with God. This is the problem the gospel solves. It is what the idea of justification is all about - God declaring a guilty sinner, not guilty. And this passage in Romans begin by telling us that this righteousness before God does not come through keeping the law but through faith in Jesus Christ. But that isn't all it tells us. It says that it comes through faith in Jesus Christ, and that all of Scripture is pointing to Jesus Christ. He is the central theme in the Scripture. Starting with Genesis 3:15 and the promise of a Savior, a covenant with Noah in Genesis 9 that reaffirms his mercy in the face of sin, continuing through the covenant with Abraham in Genesis 12 that promised he would become a nation that would bless the world, and a covenant with David in 2Samuel 7 that a king from his line would always reign on the throne. In the law of Moses, we see our lack of righteousness and our need for someone to fulfill that law and become our perfect sacrifice. Over and over, we read prophecy after prophecy in the Old Testament that could only be fulfilled in the life of Jesus Christ. So the Bible is clear at the beginning that we are sinners in need of God's righteousness. Our lack of righteousness is only made more clear as we read the Bible, but it also becomes clear that there is a promised righteousness that comes through faith. We read in **Genesis 15:6, And he [Abraham] believed the Lord, and he [God] counted it to him as righteousness.** The Old Testament pointed to Christ and his righteousness that is revealed in the New Testament. Each covenant that God made enabled the conditions for the covenant of Grace through Jesus Christ to come into view. So when we look at the Old Testament, we don't come to it looking for salvation by following the law established for the nation of Israel, we come looking for pictures pointing to the gospel of grace by faith in a holy Savior, and that is exactly what we find.

So Christ himself is the theme of the whole Bible, so **Sola Scriptura, Scripture Alone** would lead us to see Jesus Christ as the only source of righteousness. But this passage continues to show is that righteousness comes only as a result of God's grace and **Jesus Christ is the source of God's grace.** Let's begin reading at the last phrase of verse 22, **For there is no distinction: 23 for all have sinned and fall short of the glory of God, 24 and are justified by his grace as a gift, through the redemption that is in Christ Jesus, 25 whom God put forward as a propitiation by his blood, to be received by faith. This was to show God's righteousness, because in his divine forbearance he had passed over former sins.** Once again, there is a lot of truth packed into just a few short verses. Part of what Paul is dealing with in Romans is answering the question of who can receive the gift of salvation, just Jews (?) or both Jews and Gentiles. His answer from verse 22 is ... **"all who believe."** And the reason for that is that all of us are sinners as we have already looked at in verse 23, and that righteousness is not by works but by faith in Jesus Christ. So, anyone who believes in Jesus, **receives him by faith** as verse 25 says. This faith results in our justification, our being declared to be righteous in God's

eyes because he sees Christ's righteousness in us, rather than our sin which has been forgiven. This verse says that justification comes by God's grace, which we looked at when we talked about Grace Alone a couple weeks ago.

But why is Jesus Christ particularly the source of God's grace - that is the question these verses answer. The answer is in two theologically rich words - **redemption** (v.24) and **propitiation** (v.25). To redeem something is to purchase it. And when we look at the testimony of Scripture, we see that indeed it was Christ's blood that purchased our freedom from sin. **1Peter 1:18-19** calls it a ransom payment made for us, **18knowing that you were ransomed from the futile ways inherited from your forefathers, not with perishable things such as silver or gold, 19but with the precious blood of Christ, like that of a lamb without blemish or spot.** But who received payment for our sin? There were some early church theologians who tried to say that Jesus paid Satan. This cannot be true. **Colossians 2:15** says, **15 He disarmed the rulers and authorities and put them to open shame, by triumphing over them in him.** This is Jesus "triumphing" completely defeating Satan through the cross, not any sort of a negotiation or bargaining for a payment. No, instead, Scripture seems to imply that the price of redemption was paid by God in Christ to God himself. It was that human sacrifice required to pay for our sin by becoming the object of God's wrath. This is what is meant by the word **propitiation**. This word is only used 4 times in the Bible, all in the New Testament. It means an offering made to appease God's wrath by taking that wrath on itself. In this case, it was Jesus, God the Son himself, who according to **2Corinthians 5:21** was made... **to be sin who knew no sin, so that in him we might become the righteousness of God.** Jesus took our sin on himself and died bearing the punishment of God's wrath against our sin, so we can be saved from ever experiencing that wrath. So **Romans 5:8-9** says, **8 but God shows his love for us in that while we were still sinners, Christ died for us. 9 Since, therefore, we have now been justified by his blood, much more shall we be saved by him from the wrath of God.** That wonderful verse of **In Christ Alone** is very true: **Till on that cross as Jesus died, The wrath of God was satisfied; For ev'ry sin on him was laid — Here in the death of Christ I live.**

If those two things are true, that Jesus both redeemed us and bore the wrath of God for our sin then it makes sense that **Jesus Christ alone must be the object of our faith.** So verse 26 concludes, **It was to show his righteousness at the present time, so that he might be just and the justifier of the one who has faith in Jesus.** The fact that Jesus took God's wrath on himself was necessary to show how righteous God is. He did not overlook our sin, which would not actually be righteous at all. He did in fact punish that sin by pouring out his wrath against sin on Jesus, God the Son. This maintained the justice of God, because justice demands that sin must be paid for. To overlook sin would mean that justice would not be served. But Jesus took the wrath of God, paid the price for our sin, and then God the Father could look at us and say that we know longer owe a penalty for our sin because it has been paid. Based on it being paid, God becomes the justifier, by declaring us not guilty of that sin. But that justification is based on one criteria alone – faith in Jesus Christ. We need to be clear in our understanding of this. It is not faith in just God. There are many people convinced in some way that God is real, but not that Jesus is the only way to approach God or to have a relationship with him. **James 2:19** says, **You believe that God is one; you do well. Even the demons believe—and shudder!** Demons, who work for Satan are not believers in Christ, but even they fully believe in God. It is faith in a specific person of the Trinity, God the Son, Jesus

Christ, that saves us. But it is also faith in who he is. The only reason that his death could both redeem us and propitiate our sin by taking away God's wrath is because he is holy and without sin. And the only reason he is holy is because he is both God and man completely. To believe otherwise is to not truly believe in Jesus.

To have faith in Jesus, though, means only in Jesus. You can't trust in Jesus and something else. This was the problem and still is the problem of the Roman Catholic Church. It is not faith in Jesus plus attending mass, being baptized, doing penance, confessing to a priest. But it is also not adding Jesus to a list of other spiritual beings that you believe in, such as many Buddhists seem willing to do in Japan. You can't continue to worship ancestors or to venerate them in a way that makes them into a spiritual being that can bring good will into your life in some Godlike fashion. It is Jesus alone that gives us access to the supernatural, to God himself. Our faith cannot be in a church, or a priest, or in our religious obligations, or even in our social and ethnic identity, but in the person and work of Jesus Christ alone. You can have sincere faith, without that faith being in the right place. Only faith that is firmly rooted in Jesus Christ as the object of that faith will save you. You cannot DIY your own salvation, because that will leave your sins unforgiven and facing an eternity in hell under the wrath of God. You need a Savior who can save you from your sin and God's wrath, and that Savior is Jesus Christ. Repent of your sins and turn to Christ alone for salvation. He redeemed you by his blood on the cross and turned aside the wrath of God by bearing that wrath that punishment for us. So, we sing in the song from earlier, In Christ alone my hope is found. Let's pray.